

6. 今後の課題

道路事業に関する、環境対策の中で生態系の保全はもっとも困難な課題の一つである。その原因のひとつは、生態系を形成する生物種各々が固有の特徴を持っており、保全のために必要なことがあまりに多く存在し、その中には措置そのものが困難であるものも含まれることが挙げられる。

道路が生活に必要な施設であることは言うまでもないことであるが、一方で道路が周辺環境に与える影響が大きいことも事実である。こうした状況下で道路管理者の果たすべき役割は、道路本来に求められる機能を周辺環境の保全を可能な限り両立させることである。周辺環境の保全対象が、沿道住民であることもあるし、生態系であることもある。

本研究では生態系保全対策の研究の対象としてタヌキを選定した。タヌキは里山を特徴付ける典型種であるため、タヌキの保全措置を行うことが他の種の保全を行うことにもつながると考えられる。しかしながら、これだけでは十分ではなく、生態系全体のためにはタヌキを含むあらゆる生物種の保全が必要である。今後こうした研究を積み重ねていくことで可能な限り多様な生物種に対応した生態系保全措置が行われる必要がある。



© 1999 The Tanuki Club

参考文献

■ロードキル防止技術に関する関連文献

- 1) 自然との共生をめざす道づくり-エコロードハンドブック- エコロード検討委員会編
- 2) 野生動物の交通事故対策「エコロード事始め」 大泰司紀之・井部真理子・益田泰 編著
- 3) エコロード～生物にやさしい道づくり～ 亀山 章 編集
- 4) 鬼首エコロードガイドブック 建設省 湯沢工事事務所
- 5) 第1回「野生生物と交通」研究発表会公演論文集 社)北海道開発技術センター
- 6) 第2回「野生生物と交通」研究発表会公演論文集 社)北海道開発技術センター
- 7) 鬼首道路 エコロードへの挑戦 鬼首エコロード研究会
- 8) 現代日本生物誌3 フクロウとタヌキ 波多野鷹, 金子弥生著
- 9) H15年3月 沖縄県内研究発表会資料(西表島における小動物保護対策について)